

平成28年 1月 7日 NO・89

〒311-1114 水戸市塩崎町1016
TEL029-269-2116 FAX029-269-3160
Mail tunezumi-j@magokoro.ed.jp

【ホームページで、カラー版が見られます】



スピリット 常中魂

常中魂を磨く三学期

「一年の計は元旦にあり」一人一人が「今年こそは」と新しい年への決意をしたことと思います。自分は何がしたいのか、何をしなければいけないのか、そして、何ができるのかよく考えて、決めた自分の目標をしっかりと実践していきましよう。

小さなことでも、ありふれたことでも、継続することに意味があります。やりぬいた喜びは自信につながります。自分に自信をもつことはとても大切なことなのです。さて、学校は今日から三学期です。三学期は一年のしめくりであると同時に、次の学年に向けての重要な時期でもあります。皆さんには、「常澄中学校とはどんな学校ですか」と誰かに尋ねられたら、「常澄中学校は、常中

魂を育てる学校です」と、自信をもって答えるようにと話をしています。おそらく質問者は、「では、常中魂とは何ですか」と、さらに質問してくるでしょう。そうしたら、「常中魂の基本は三つあります。一つは『常に正しかれ』二つ目は、『常に豊かなれ』そして、三つ目は、『常に気高かれ』という心の在り方を指します」と答えて下さい。

そうすると、質問する人はさらに突っ込んで質問をしてくるはずで、「常に正しかれ」とは、どういうことですか」この質問には、こう答えます。「物事の判断の基準を、『楽か楽でないか』『自分だけ』楽しいか、楽しくないか」に置くのではなく、『自分たちの育ちにとって、正しいか正しくないかで判断する』ということなのです。

また、「常に豊かなれ」とは、豊かさの規準を、遣えば減ってしまってお金やモノの豊かさに置くのではなく、遣えば遣うほど増える、『心の豊かさ』に置く、ということとです」と答えます。さらに「常に気高かれ」とは、たった一人でも、正しいこと、豊かな行いを実行できる気概をもつことを指します」と答えて下さい。

例えば、朝の寒い中で毎日自主的に挨拶運動を行うのは、楽か楽でないかを規準としたなら、楽ではないし、楽しくないと思います。しかし、「正しさ」を規準としたなら、自分の心を育て、友達を持ちを豊かにするためには正しい行動です。また、自分のためというよりは、人のため、学校のために行う挨拶運動は、間違いなく心の貯金をふやします。このような「朝の挨拶運動」

「人が気づかないところで行う清掃活動」「皆が帰った後の教室の机や椅子の整理整頓」のような具体的な行動を、コツコツと続けることを目指して下さい。地道な努力を続けることができるとき、結果として「いいクラスだった、いい学年だった、いい学校だった、いい仲間たちだった」と感じることができるようになります。「自分のための目標」はもちろんですが、さらに、「他の人のために何かできないか」、このことを考える心の余裕こそ、「常中魂の神髄」です。「俺って、私って、人のために役に立っている。」こう思えることが、実は自分自身のためであることとを心に刻んでください。一人一人が、自分自身の常中魂を磨く、良い三学期となることを願っています。【学校長より】

新学期の抱負

三年 鈴木 雅人

三学期の初めに当たり、二つの目標を立てました。一つ目は、学習面です。まず、家庭学習の時間を増やします。今年を受験生なので、今まで通りの勉強時間では足りないと思っただけです。次に授業に集中して取り組むという事です。僕は、授業中に友達と話をしたりして、しっかりと取り組めないことがよくありました。それによって、家に帰ってきてから

その授業の復習に追われ、自分のすべき学習がおろそかになっていました。その反省を基に、三学期は、授業に真面目に取り組むことで、学校でより多くの知識を身に付けたいと思っています。次に生活面です。朝、時間に余裕をもって登校することです。三年生になり、部活を引退してから、朝、起きる時間が以前よりもとても遅くなっています。遅くなったので、時間を遅くしたことで、家を遅くする時間も遅れ、

いつも、入室完了しなければならぬ、八時一〇分ギリギリに登校することが多くなっていました。このままでは、遅刻してしまう日が来ると、朝の時間に余裕がないと、落ち着いた状態で一時間目がスタートできません。落ち着いた精神状態では一日を過ごすためには、朝の時間を大切にしたいと思っています。これらの目標を実現するために、常澄中学校での学校生活の最後であるこの三学期を、有意義なものとし、志望校に合格できるようにしたいと思います。

名氏者表発表代表生徒式業始
1年林昇吾・2年柳瀬柚奈・3年鈴木雅人【敬称略】



7日に3学期の始業式が実施された。そのなかで、各学年の代表が、抱負を発表した。常中は、本年度から発表の基本は、原稿を見ない、「ノー原稿」で行うことにしている。最終的には、一度覚えた原稿にこだわらず、自分の言葉で語ることができる力を培いたいと願っている。日本のみならず世界的なフィールドで活躍するためには、『自分の言葉で語る力』の育成が必須であると考えている。